

目で見る 明治大学の歩み



#92

昭和の御茶ノ水駅改修工事

駿河台キャンパスの最寄り駅の一つであるJR御茶ノ水駅では、現在改修工事が進められています。現在の駅舎・設備は、1932(昭和7)年7月の御茶ノ水～両国駅間の開業に伴って竣工したものです。今回は、当時の工事や竣工当初の様子と、御茶ノ水駅の現況を比較してみます。

明治大学史資料センター 阿部 裕樹



駅舎・御茶ノ水橋口 (上から1935年ころ、2015年)



神田川橋梁桁架設作業



総武線の神田川橋梁 (上から工事中、1938年ころ、現況)



**お茶の水驛が近く
聖橋よりに移轉**

改良計畫は結構だが……
乗降口の位置が問題

大正12年(1927)に竣工した御茶ノ水驛は、戦後、中央線沿線の改良工事が進められ、御茶ノ水驛は、聖橋より御茶ノ水橋西側に移轉した。この移轉は、御茶ノ水驛の歴史を大きく変えた。この移轉の背景には、御茶ノ水驛の乗降口の位置が問題となっていた。御茶ノ水驛の乗降口は、御茶ノ水橋の西側にあり、御茶ノ水橋の東側にあった。この乗降口の位置は、御茶ノ水橋の構造上、乗降が不便であった。御茶ノ水驛の乗降口の位置を、御茶ノ水橋の東側に移轉させることが、御茶ノ水驛の改良の第一歩であった。御茶ノ水驛の乗降口の位置を、御茶ノ水橋の東側に移轉させることは、御茶ノ水驛の歴史を大きく変えた。御茶ノ水驛の乗降口の位置を、御茶ノ水橋の東側に移轉させることは、御茶ノ水驛の歴史を大きく変えた。

問題 御茶ノ水驛の乗降口の位置が問題となっていた。御茶ノ水驛の乗降口は、御茶ノ水橋の西側にあり、御茶ノ水橋の東側にあった。この乗降口の位置は、御茶ノ水橋の構造上、乗降が不便であった。御茶ノ水驛の乗降口の位置を、御茶ノ水橋の東側に移轉させることが、御茶ノ水驛の改良の第一歩であった。御茶ノ水驛の乗降口の位置を、御茶ノ水橋の東側に移轉させることは、御茶ノ水驛の歴史を大きく変えた。

御茶ノ水駅の「移轉」工事を伝える「駿台新報」(1927年12月10日)。1932年以前の御茶ノ水駅は、御茶ノ水橋西側に駅舎があったため「移轉」と表現されています。



景全近附驛水ノ茶御ルタ見リヨ橋聖



聖橋 (1927年竣工) から見た秋葉原方面 (左から工事中、現況)

(付記) 本ページの成果は、JSPS 科研費 JP19K02437およびJP22K02240の助成を受けたものです。